



第92回 イギリスの絶対王政



ヘンリ7世
実力はあったが、血統にはかなりの問題があった。
第64回を復習。

1 イギリスの絶対王政と宗教改革

・イギリスでは、1485年に王位継承争いである（ ）が終了し、テューダー朝が成立した。

☆イギリス（ ）(1485～1603年)

◆（ ）(在位 1485～1509年)
・バラ戦争を終わらせてテューダー朝を開き、貴族を抑えて王権を強化した。



ヘンリ8世
ホルバイン作の肖像画である。けっこうリアルな絵です。生涯に6人の妻を持った。

◆（ ）(在位 1509～1547年)
・（ ）を整備し、国王に反対する貴族を取り締まった。
・ヘンリ8世は、離婚問題でローマ教皇と対立し、カトリックから離脱した。
→1534年、（ ）を制定し、（ ）を創始した。

→1535年、これに反対した（ ）を処刑した。



アン=ブーリン

かなりの美人だったらしい。エリザベス1世の実母でもあるが、悲劇的な最期となった。



映画『ブーリン家の姉妹』

このあたりの事情は、映画を見るとおもしろい。アン=ブーリンをナタリー=ポートマンが演じた。



トマス=モア

『ユートピア』の中で、「羊が人間を喰う」という表現を用いて、困い込みを批判した。第88回を復習。



エドワード6世
マーク=トウェインの『王子と乞食』のモデルとして知られる。

◆（ ）(在位 1547～1553年)
・1549年、一般祈祷書によりイギリス国教会の礼拝法や教えが定められた。
※制度や儀式はカトリックの司教制、教えはカルヴァン派に近かった。



メアリ1世
カクテルの名前になったことで有名。

◆（ ）(在位 1553～1558年)
・スペインの（ ）と結婚して一時的に（ ）したが、民衆は反発した。
→イギリス国教徒を激しく弾圧したため、「血のメアリ」と呼ばれた。
・カレーを失い、フランスにおけるイギリス領をすべて消失した。

2 テューダー朝時代のイギリス社会

<新興地主階層の登場>

- ・カトリックから離脱したヘンリ8世は、カトリックの修道院を解散させ、土地を没収して売却することで莫大な資金を獲得した。
→（ ）と呼ばれる地主が土地を買った。
→治安判事として地方行政を担当し、地方で力を伸ばすものも多かった。

<第一次囲い込み>

- ・イギリスでは、羊を放牧するためにジェントリが農民から土地を非合法に取り上げて、塙などでその土地を囲む（ ）が行われた。
 ※政府は禁止したが効果はなかった。
 →羊毛の生産が増大し、（ ）がイギリスの名産品となった。

<新しい生産体制>

- ・毛織物工業が発展するなかで、一部の商人が原料や道具を生産者に貸して注文・生産を行う、（ ）が登場した。
 →後に有力商人が工場を建て、生産者を集めて分業を行い、共同作業で生産する（ ）へと発展した。



エリザベス1世

3 イギリスの繁栄

- ◆（ ）（在位 1558～1603年）
- ・1559年、（ ）を制定して、イギリス国教会を確立した。
- ・1584年、ローリが北アメリカに（ ）植民地を建設した。
 →失敗したが、アメリカにおける植民地建設の第一歩となった。



ウォルター＝ローリ
探検家、詩人、そして女王の愛人でもあった。アメリカ史でも重要人物。

<スペイン対イギリス>

- ・エリザベス1世は、ホーキンズや（ ）といったカリブの海賊に私掠特許状を与えて公認し、新大陸からの銀を運ぶスペイン船を襲わせていた。
 ※このような海賊船を（ ）という。
- ・また（ ）の独立運動をイギリスが援助したことや、宗教問題などで、スペインとの対立が激化していった。
 →スペインは（ ）を派遣して、イギリスの征服を狙った。
 →しかし1588年、（ ）でイギリスが勝利した。
 ※スペインの繁栄にかげりが見え始めた事件である。



映画『エリザベス』

エリザベス1世に関しては、ケイト＝ブランシェットが主演した2本の映画がおもしろい。オーラが凄いです。



ホーキンズ



ドレーク

ドレークは、世界一周を2番目になし上げた人物でもあり、伝説的な海賊である。アルマダ海戦では実質的な司令官を務めた。



グレシャム

エリザベス1世の財政顧問として、質の悪い貨幣を新しい貨幣に改鑄し、経済を安定させた。「悪貨は良貨を駆逐する」はグレシャムの法則として有名。

- ・スペインを破ったイギリスは、1600年、（ ）を設立した。
 →海外進出を進め、後にアジア貿易を独占的に行う特権的貿易会社となった。
 ※貿易によって利益をあげるイギリスの重商主義を、貿易差額主義という。
- ・また1601年、囲い込みで増加した貧民を救うため、救貧法を制定した。